

らんだお東京



手話をするマネキン

「銀座の顔」で 愛をまわす

左手のこぶしの甲を右手でなでるポーズ。マネキンが手話で語りかけている。ここは銀座四丁目交差点の一角を占めるしせ高級店「和光」のショーウィンドー。鮮やかな紫の衣装をまとった二十三体のうち、特注の緑の腕を持つ六体が手話のポーズをとっているマネキンだ。すました表情が、いつもより優しげに見える。

銀座一帯では二十五日からは「バリアフリークリエイション97」が開かれている。バリアフリーとは、体に障害がある人やお年寄りでも不便を感じないで済む環境。暮らしやすい生活用品、サービスが提供されるバリアフリー社会を実現しようとして活動している民間グループが主催している。「バリアフリーは銀座から」を合言葉に企業、店舗

ポーズが何を意味しているか、説明はない。「銀座の顔」ともいえる和光のウィンドー展示を担当して二十六年になる八島治久常務は「何だろう...と関心を持つのも一つの目的です。お店に入って、店員に聞いてもらえれば、ポーズの意味はご説明いたします」と話す。

などが協力して、障害者も健常者も使える家電などの「共用品」を五カ所で展示しているほか、シンポジウムや聴覚障害者のため音やリズムを光の色や点滅で表現するコンサートなど、三十一日まで十二カ所で各種イベントが行われる。

和光のマネキンも、この催しに賛同してお目見えした。ポーズの意味は「愛しています」

紫のドレスのマネキンが語る言葉は？

「愛しています」

(和)